すくすく GENKI

２０１５年６月２２日

京都協立病院
小児科医療課

蒸し暑い季節になってきました。プールも始まり、疲れが出やすい季節でもありますね。

こどもの『なつかぜ』

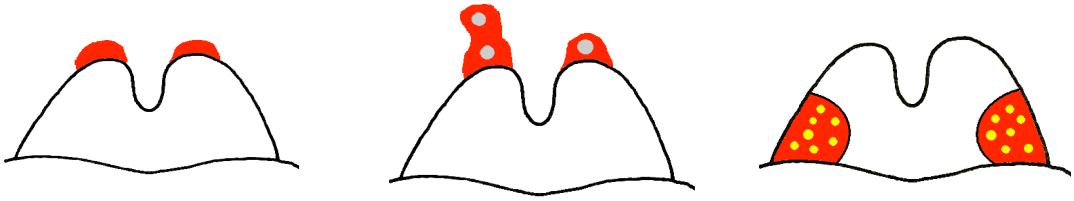
風邪は一年中を通してありますが、風邪の中でも夏の暑い時期に多いものを「夏風邪」と呼んでいます。

☆せきのない「かぜ」

夏かぜは､エンテロウィルスとアデノウィルスという２種類のウィルスによって起こるものが中心です。エンテロウィルスやアデノウィルスの感染では、熱が高く出ますが、咳や鼻水が目立たないのが特徴です。

☆手足口病も「なつかぜ」

エンテロウィルスに属するウィルスは７０種類もあってコクサッキーA１６型とか、エコー３０型とか､いろいろな名前を持っているものもあります。生ワクチンでおなじみのポリオウィルスも実はこのエンテロウィルスに属しています。
エンテロウィルスは、ふつう２～３日の潜伏期で症状を出し、咽頭（のど）とくにのどの上の軟口蓋が赤くなるのが特徴です。結構高い熱が出ますが、子供はそのわりに元気にしています。熱は上がったりさがったりして数日続きますが、自然に治ります。咳や鼻水はなく、少し便が柔らかくなることがあります。エンテロウィルスの感染で、咽頭が赤いだけだと「夏かぜ」と言っていますが、そこに水疱ができると「ヘルパンギーナ」と言います。水疱は口の中の頬など他の粘膜にもできます。この場合、さらに手のひらや足の裏にまで水疱ができると「手足口病」と言います。「手足口病」では、お尻や膝などにも水疱ができることがあります。「夏かぜ」も「ヘルパンギーナ」も



エンテロウイルス（約７０種）
（コクサッキー､エコー､エンテロなどのウイルス）

アデノウイルス（約４０種）

「手足口病」も、同じ病気なのですが、症状の出方で名前が変わるのです。ですから「手足口病」を伝染病扱いすることには何の意味もありません。「手足口病」は誰の目にも見える病気なので特別視されたのでしょうが、小児科学会ではすでに７年前に隔離は不要との見解を表明しています。

☆発疹もできる

発疹もエンテロウィルスの感染でよく見られる症状です。乳幼児期はその他のウィルス感染による風邪でもよく発疹がでますが、エンテロウィルスは発疹を出すかぜの代表です。ところでエンテロウィルスは、おたふくかぜとならんで無菌性髄膜炎の２大原因としても知られています。髄膜炎と聞くと恐れる方も多いと思いますが、無菌性の髄膜炎は細菌性髄膜炎（化膿性髄膜炎）とちがって、自然に治る病気です。髄液の検査が必要な場合もありますが、ふつうは入院も不要で、大きな心配はいりません。

☆「プール熱」と「はやり眼」

もう一方のアデノウィルスは、「プール熱（咽頭結膜熱）」や「はやり眼（流行角結膜炎）」の原因となるもので、約４０種類あります。咽頭結膜熱では、咽頭が赤くなり、高熱が続きます。扁桃に白いぶつぶつができたりするので、「へんとうせん」と言われることもあります。名前の通り結膜炎をともなう場合もありますが、熱と咽頭だけの症状のこともあります。流行性角結膜炎では眼瞼（まぶた）が腫れぼったくなり、白目のところが赤くなるのが特徴です。目やにはそれ程出ませんが、目がかゆくなります。高熱を伴うことも多く、咽頭結膜炎と区別がつきにくい場合もあります。以上のアデノウィルスもエンテロウィルスもウィルスですので抗生物質は効きません。静かにして、身体の抵抗力で自然に治るのを待ってください。

＜新しいワクチン＞

Hib ワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン・子宮頸がんワクチンを小児科でも接種を行なっています。事前に医師の説明を聞いていただいてからの予約とさせていただいています。

詳細は小児科看護師まで